

令和5年度事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

目次

1. 法人の状況に関する重要な事項
2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）
3. 事業報告附属明細書



1. 法人の状況に関する重要な事項

令和5年4月1日から令和6年3月31日に至る事業活動として、定款第3条に掲げる「実学の精神に則り、生物学的製剤等に関する研究・調査及び助成・顕彰等を行う等して、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資する」ことを目的として、定款第4条並びに平成31年4月1日付けで内閣府より変更認可を受けた公益目的支出計画に基づき以下の諸事業を行った。

本事業報告 段落番号	事業名	定款 第4条	公益目的 支出計画
1(1)	公益目的支出計画に基づく実施事業		
1(1)①	研究助成事業	(2)	公益1
1(1)②	顕彰事業	(2)	公益2
1(1)③	生物学的製剤等に関する研究・調査事業	(1)	継続1
1(1)④	予防衛生普及事業		継続2
1(1)④ア	医療技術者を養成する事業への協力支援	(3)	
1(1)④イ	奨学金給付	(6)	
1(1)④ウ	学術集会開催・後援	(7)	
1(1)④ウ	大学・研究機関の後援	(7)	
1(1)④エ	寄附講座	(7)	
1(1)④オ	印刷物の刊行	(7)	
1(2)	その他の事業		
1(2)①～④	医療機関等への協力・支援	(4)	
	地球環境保全に関連する事業	(8)	
	健康管理支援事業ほか	(9)	

定款第4条

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 生物学的製剤等に関する研究・調査
- (2) 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰
- (3) 医療技術者を養成する事業への協力・支援
- (4) 医療機関への協力・支援
- (5) 印刷物の刊行
- (6) 奨学金の支給
- (7) 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

- (8) 地球環境保全に関連する事業
- (9) その他当法人の目的達成上必要と認める事業

2 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

(1) 公益目的支出計画に基づく実施事業

① 研究助成事業

感染症領域及び血液領域の発展に寄与することを目的に、両領域の基礎的研究を対象とした以下の3つの研究助成事業を実施した。

- 「化血研研究助成」は、年齢制限を設けずに公募し、先端的・独創的に研究に取り組んでいる日本の大学または公的研究機関等に所属する研究者個人若しくは研究チーム・団体に対して、1件あたり年1,000万円を2年間助成する。
- 「化血研若手研究奨励助成」は次世代の研究者の育成に資するために、45歳未満（申請締切時点）の研究者を対象に公募を行い、先端的・独創的に研究に取り組み、独立した研究課題（研究テーマ）を持った将来有望な若手研究者に対して、1件あたり300万円を助成する。
- 令和5年度から新たに開始した「化血研ステップアップ研究助成」は、令和2,3年度「化血研若手研究奨励助成」対象者を申請者資格として公募し、将来有望な若手研究者の研究を更にステップアップするため、1件あたり年300万円を2年間助成する。

申請された候補者の中から、学識経験者14名で組織される助成選考委員会で選考を行い、理事会にて「化血研研究助成」6件（別表1）、「化血研若手研究奨励助成」15件（別表2,3）、「化血研ステップアップ研究助成」2件（別表4）を決定し、計1億1,100万円を助成し、ホームページに公開した。合わせて、令和3年度及び令和4年度「化血研研究助成」対象者12名に、計1億2,000万円を助成金として支給した（研究助成金の支給総額：2億3,100万円）。

令和2,3年度「化血研研究助成」対象者12件、および令和3年度「化血研若手研究奨励助成」対象者10件の研究報告書に基づき、助成選考委員による中間及び事後評価を実施し、各対象者に評価結果をフィードバックした。

令和5年度「化血研研究助成」「化血研若手研究奨励助成」対象者16名にインタビューを行い、当法人ウェブサイトにおいて公開した。

また、令和2年度「化血研研究助成」対象者6名、令和4年度「化血研若手研究奨励助成」対象者10名による助成研究報告会を、令和6年3月14,15日開催した。



【写真1】第3回 助成研究報告会

② 顕彰事業

感染症領域及び血液領域の研究において大きな成果のあった者で、今後も研究の進展に貢献が期待される個人・法人・研究チーム・団体を顕彰する事業を実施した。

当法人が定めた計17の学会（表1）、並びに当財団の理事及び評議員から推薦のあった者について、学識経験者10名で構成される顕彰選考委員会で選考を行い、理事会にて第5回『太田原豊一賞』顕彰者2名を決定（表2）し、ホームページに公開した。授賞者には、令和6年3月15日開催の贈呈式において、太田原豊一賞（賞状、トロフィー）および副賞（1件 1,000万円）を贈呈した。

表1 推薦学会

・日本ウイルス学会	・日本エイズ学会	・日本感染症学会
・日本癌学会	・日本寄生虫学会	・日本血液学会
・日本血栓止血学会	・日本公衆衛生学会	・日本細菌学会
・日本獣医学会	・日本生化学会	・日本熱帯医学会
・日本分子生物学会	・日本免疫学会	・日本薬学会
・日本輸血・細胞治療学会	・日本ワクチン学会	

表2 第5回『太田原豊一賞』受賞者

氏名	所属 役職	受賞研究テーマ
岡田 随象 先生	東京大学 大学院医学系研究科 遺伝情報学 教授 大阪大学 大学院医学系研究科 遺伝統計学 教授 理化学研究所 生命医科学研究センター システム 遺伝学チーム チームリーダー	遺伝統計学による新 型コロナウイルス感 染症の病態解明
川口 寧 先生	東京大学 医科学研究所 副所長 東京大学 国際高等研究所新世代感染症センター 副機構長	ヘルペスウイルス感 染の分子基盤に関す る研究



【写真2】第5回『太田原豊一賞』贈呈式

③ 生物学的製剤等に関する研究・調査事業

ア. 熊本保健科学大学 生物毒素・抗毒素共同研究講座

令和元年10月1日に熊本保健科学大学に開設した生物毒素・抗毒素共同研究講座において、生物毒素、抗毒素とその品質管理手法の開発研究等を継続して実施した。

イ. 熊本保健科学大学 品質保証・精度管理学共同研究講座

令和2年10月1日に熊本保健科学大学に開設した品質保証・精度管理学共同研究講座において、医薬品GMPとその医薬品等の品質保証、ISO15189を中心とした医学検査所の品質管理の調査・研究を継続して実施した。

ウ. 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP 講座

令和2年7月1日に東京理科大学薬学部にて社会連携講座として開設した医薬品等品質・GMP 講座において、医薬品 GMP を中心とした研究とその教育システムの開発を継続して実施した。

エ. 熊本大学 抗ウイルス療法・血液疾患研究共同研究講座

令和5年4月1日に熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センターにて抗ウイルス療法・血液疾患研究共同研究講座を開設し、新規な抗ウイルス療法および血液疾患治療法の開発に向けた調査・研究を開始した。

④ 予防衛生普及事業

ア. 医療技術者を養成する事業への協力・支援

使途を医療技術者養成と指定して、学校法人銀杏学園熊本保健科学大学に対し2,400万円を、国立大学法人熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）に対し1,000万円を寄附した。

イ. 奨学金の給付

熊本保健科学大学の学生に対し給付型奨学金「化血研奨学金」を、九州8大学（九州大学、熊本大学、長崎大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）の医学部博士課程（感染症/血液専攻）、及び医学部医学科課程の学生に対して給付型奨学金「化血研医学奨励奨学金」の支給事業を行った（博士課程奨学金一人当たり月10万円（年間120万円）、医学科課程一人当たり月5万円（年間60万円））。

対象となる大学から推薦を受けた16名について、理事面接の上、15名の奨学金給付を決定した。令和4年度以前からの支給者36名と合わせて計51名（表4）に対し、総額3,360万円を支給した。

表4 奨学金支給件数（令和5年度）

	熊本保健科学大学	熊本大学	九州大学	長崎大学	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学	琉球大学	件数合計
化血研奨学金	12 (8)	/	/	/	/	/	/	/	/	12 (8)
化血研医学奨励奨学金	/	15 (3)	5 (2)	5 (0)	2 (0)	3 (1)	4 (1)	1 (0)	4 (0)	39 (7)
全体合計										51 (15)

※カッコ内は、令和5年度に新規に支給を開始した件数

ウ. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

1. 阿蘇シンポジウム（主催）

令和5年7月28日及び29日に、熊本城ホールにおいて第43回阿蘇シンポジウムを開催した。テーマを「免疫、感染、アレルギー、がん研究の next step に向けて」とし、先端の研究者10名が講演を行った。シンポジウムはハイブリッド（現地開催+WEB配信）形式で開催し、参加者は314名（うち、現地参加者144名）であった。



【写真3】第43回 阿蘇シンポジウム

2. 肥後医育塾（共催）

熊本県民に対して定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに健康と医療を考えることを目的に、市民公開セミナー「肥後医育塾」を公益財団法人肥後医育振興会、熊本日日新聞社と共催した。令和5年度は、以下の3回の公開講座開催他の費用として、500万円を助成した。

開催日	テーマ	現地参加者
2023年7月9日	その頭痛や腰痛、放置していませんか？	約140人
2023年11月4日	耳、鼻、のど、皮膚のその症状、気になりませんか？	約160人
2024年3月2日	サイレント・キラー（沈黙の病気）～無症状のまま進行する怖い病気～？	約230人

3. 熊本大学夢科学探検（協賛）

本イベントは、最先端の科学を分かりやすく紹介しながら子供たちに感動を与え、興味を深めてもらおうと熊本大学が毎年実施しているもので、毎年、寄付金50万円を支出し協賛している。令和5年度は、令和5年11月3日に実施され、約2,400名の来場者があった。

エ. 大学寄附講座

1. 熊本大学国際先端医学研究機構 造血幹細胞工学寄附講座

熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）に設置した造血幹細胞工学寄附講座（平成31年4月に設置）に対し、設置最終年度となる今年度は、2,500万円の寄附を行い、令和6年3月末で設置期間を満了した。

尚、本テーマは、令和6年度は「（1）公益目的支出計画に基づく実施事業③生物学的製剤等に関する研究・調査事業」の共同研究講座へ移行する予定。

2. 熊本大学フロンティアデータサイエンス化血研寄附講座

令和4年4月1日付で、熊本大学大学院先導機構にフロンティアデータサイエンス化血研寄附講座を設置した。本講座では、健康・公衆衛生・生体・物質材料分野等の研究においてデータサイエンスを展開し、データサイエンティストの育成を図る。本年度は3,440万円を寄附した。

オ. 印刷物の刊行

当法人の事業内容を紹介する定期刊行物「OH!120」を、令和5年4月及び9月の2回、それぞれ1,500部発刊した。当法人関係者等へ郵送若しくは配布したほか、当法人ウェブサイトにおいて公開した。

(2) その他の事業

① 健康管理支援事業

公益財団法人友愛福祉財団が実施主体である健康管理支援事業について、令和5年度の本事業に要する経費の当法人分担金として、1,499万4,348円を支出した。

② 地球環境保全に関連する事業

水涵養の目的で、平成9年度及び平成10年度に九州森林管理局との分収造林契約に基づき熊本県山都町内大臣の国有林の一部に植林を行い、維持している。

③ 医療機関への協力・支援

当法人の理事2名が医療法人城南ヘルスケアグループの社員・理事に就任している。

④ 不動産賃貸事業

ア. 熊本県熊本市南区城南町舞原

年間を通じて、医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院に対し、その病院用地を賃貸した。

イ. 東京都港区白金台

賃貸用マンションの運営を継続した。

2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）

（1）内部統制システムの整備に関する決定の概要

令和5年度において、以下を整備した。

1. ボード会議運営規程の制定
2. ボード会議の設定
3. 戦略企画プロジェクトチームの設置
4. 評議員会通信の発刊

（2）内部統制システムの運用状況の概要

1. ボード会議

業務執行理事による協議の場としてボード会議を設け、理事会議題の論点の事前共有や、各種事業課題の進捗状況の確認を行った。

2. 戦略企画プロジェクトチーム

リスクマネジメント、コンプライアンス推進、経営企画業務の事務局業務を担当する戦略企画プロジェクトチームを設け、内部統制システムの強化を図った。

3. 評議員会通信

評議員への事業活動に関する情報共有手段として「評議員会通信」を発刊し、理事会審議内容等を定期的に共有した。（月刊）

3. 事業報告付属明細書

別表 研究助成事業対象者

【別表】 研究助成事業対象者

化血研研究助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
鈴木 一博	大阪大学 免疫学フロンティア 研究センター	教授	新型コロナウイルス感染症における自己抗体 産生機序の解明と制御
高田 礼人	北海道大学 人獣共通感染症国際 共同研究所	教授	汎フィロウイルス感染症治療薬開発に向けた 基礎研究
竹田 誠	東京大学 大学院医学系研究科	教授	II 型膜貫通型セリンプロテアーゼ TMPRSS2 による呼吸器ウイルス活性化機構
TOMA CLAUDIA	琉球大学 大学院医学研究科	准教授	宿主真核細胞のタンパク質分解系を利用する 人獣共通病原細菌「レプトスピラ」の感染戦 略
日吉 大貴	長崎大学 熱帯医学研究所	准教授	固定組織シングルセル RNA-seq 技術を用いた サルモネラ病原因子による宿主免疫細胞再構 成の網羅的解析
横溝 智雅	東京女子医科大学 医学部	講師	造血システムの発生・維持・進化における造 血幹細胞の役割について

化血研若手研究奨励助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
芦田 浩	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合 研究科	准教授	病原性大腸菌感染における Effector-triggered immunity 発動機構とその制御機構の解明
笠松 純	鹿児島大学 大学院医歯学総合 研究科	講師	食物アレルギーにおける新規腸管好酸球サブセットの機能解析とその応用
金山 剛士	東京医科歯科大学 難治疾患研究所	准教授	生体ストレスへの造血応答解析を可能にする造血幹細胞同定法の開発
北本 宗子	大阪大学 免疫学フロンティア 研究センター	特任 准教授	腸内細菌叢を基軸とした難治性腸管感染症の病態解明と新規治療法の確立
櫻井 政寿	慶應義塾大学 医学部	専任 講師	クローナル増幅を用いたヒト造血幹細胞の遺伝子編集技術の確立
塩田 拓也	宮崎大学 フロンティア科学総 合研究センター	准教授	梅毒トレポネーマの外膜タンパク質の生合成解析法の構築と阻害剤探索
柴田 琢磨	東京大学 医科学研究所	准教授	TLR7 が誘導する非炎症性応答の誘導メカニズムの解明
関 まどか	岩手大学 農学部	准教授	哺乳類体内に匹敵する肝蛭 (かんでつ) 幼虫の in vitro 培養系の確立 —薬剤開発のボトルネック解消を目指して—
相馬 悠希	九州大学 大学院農学研究院	助教	ヒト血漿を対象とした定量メタボロミクスの実現に資する合成生物学的アプローチ
高橋 大輔	慶應義塾大学 薬学部	専任 講師	腸内細菌を自己として認識する $\gamma\delta$ T17 細胞による宿主-腸内細菌共生関係構築

化血研若手研究奨励助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
千田 剛士	浜松医科大学 医学部	特任 助教	D 型肝炎ウイルスを利用した遺伝子導入技術の開発と B 型肝炎治療への応用
伴戸 寛徳	旭川医科大学 医学部	准教授	ヒトの脳におけるトキソプラズマ潜伏感染機構の包括的な解明
三宅 健介	東京医科歯科大学 統合研究機構	特任 助教	1 細胞解析を用いたプレ好塩基球の分化機構解明
山本 雄介	国立がん研究 センター研究所 病態情報学ユニット	独立 ユニット 長	大規模 1 細胞 RNA-seq による多発性骨髄腫の髄外病変の形成過程の解明と治療標的の探索
横田 明日美	東京薬科大学 生命科学部	助教	転写因子 C/EBP α と C/EBP β が制御する定常時とストレス時造血モード切り替え機構の解明

化血研ステップアップ研究助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
黒滝 大翼	熊本大学 国際先端医学 研究機構	特任 准教授	炎症性樹状細胞の分化機序と機能の解明
白銀 勇太	九州大学 大学院医学研究院	講師	シス受容体はモルビリウイルス神経病原性の鍵となるか